

智妙房御返事

弘安三年一二月一八日 五九歳

鷺目一貫送り給びて法華經の御宝前に申し上げ候ひ了ぬ。

なによりも故右大将家の御廟と故権大夫殿の御墓とのやけて候由承りてなげき候へば、又八幡大菩薩並びに若宮のやけさせ給ふ事いかんが人のなげき候らむ。世間の人々は八幡大菩薩をば阿弥陀仏の化身と申すぞ。それも中古の人々の御言なればさもや。但し大隅の正八幡の石の銘には、一方には八幡と申す二字、一方には昔靈鷲山に在って妙法華經を説き、今正宮の中に在って大菩薩と示現す等云云。月氏にては釈尊と顕はれて法華經を説き給ひ、日本国にしては八幡大菩薩と示現して正直の二字を願に立て給ふ。教主釈尊は住劫第九の減、人寿百歳の時、四月八日甲寅の日、中天竺に生まれ給ひ、八十年を経て、二月十五日壬申の日御入滅なり給ふ。八幡大菩薩は日本国第十六代応神天皇、四月八日甲寅の日生まれさせ給ひて、御年八十の二月の十五日壬申に隠れさせ給ふ。釈迦仏の化身と申す事はたれの人かあらそいをなすべき。しかるに今日本国の四十五億八万九千六百五十九人の一切衆生、善導・慧心・永観・法然等の大天魔にたぼらかされて、釈尊をなげすて、阿弥陀仏を本尊とす。あまりの物のくるわしさに、十五日を奪ひ取りて阿弥陀仏の日となす。八日をまぎらかして薬師仏の日と云云。あまりにをやをにくまんとて八幡大菩薩をば阿弥陀仏の化身と云云。大菩薩をもてなすやうなれども八幡の御かたきなり。知らずわさでもあるべきに、日蓮此の二十八年が間、今此三界の文を引きて此の迷ひをしめせば、信ぜずばさてこそ有るべきに、いつ、きつ、ころしつ、ながしつ、をうゆへに、八幡大菩薩宅をやいてこそ天へはのぼり給ひぬらめ。日蓮が勘がへて候ひし立正安国論此なり。

あわれ他国よりせめ来たりてたかのきじをとるやうに、ねこのねずみをかむやうにせられん時、あまや女房どものあわて候はんずらむ。日蓮が一るいを二十八年が間せめ候ひしむくいに、或はいころし、切りころし、或はいけどり、或は他方へわたされ、宗盛がなわつきてさらされしやうに、すせんまんの人々のなわつきて、せめられんふびんさよ。しかれども日本国の一切衆生は皆五逆罪の者なれば、かくせめられんをば天も悦び、仏もゆるし給はじ。あわれあわれはぢみぬさきに、阿闍世王の提婆をいましめしやうに、真言師・念仏者・禅宗の者どもをいましめて、すこしつみをゆるせさせ給へかし。あらをかし、あらをかし、あらふびん、あらふびん。わわくのやつばらの智者げなれば、まこととて、もてなして事にあはんふびんさよ。恐々謹言。

十二月十八日

日蓮花押

ちめう房御返事